

インド深耕へ現法稼働

ウェーブ ロックAT 加飾フィルム 拡販

ウェーブロック・アドバンスト・テクノロジー（ウェーブロックAT、東京都中央区、島田康太郎社長）は、15日にインド現地法人（ハリアナ州）を稼働する。自動車メーカー向け金属調加飾フィルムの販売体制を強化する。同フィルムを使った自動車部品の現地生産を計画し、2026年3月期中にパートナー企業を選定する。成長著しいインド自動車市場を深耕する。

金属調加飾フィルムは金属と樹脂を組み合わせたフィルムで、メッキや塗装を代替する。光線、電波を透過することが可能。ウェーブロックATの算定によると表面処理の二酸化炭素（CO₂）排

出量をメッキと比べ44%、塗装と比べ33%削減できる。日本国内、米国、中国メーカーの採用実績がある。



マヒンドラ&マヒンドラは新型EVのフロント、リアのエンブレムに金属調加飾フィルムを採用

ホイールキャップに採用。両社が今後発売する新型車にも採用見込みという。

調査会社マークライズによると、インド国内の自動車生産台数は24年が601万4548台と20年と比べ77%増加。生産増に伴い環境問題が深刻化している。ウェーブロック

ATの島田社長は「インドはメッキ、塗装の工場新設が難しい現状がある」として、環境性が同フィルム採用拡大の要因と分析する。フィルム特有のデザイン性や軽量化の観点でも需要があるという。

自動車部品の現地生産も予定。米国ではオハイオ州に工場を構え、24年初から現地生産を実施している。インドでは現地の1次取引先（ティア1）企業と連携する。スズキ傘下でインド自動車最大手のマルチ・スズキ・インディア向けなど新規開拓も狙う。

ウェーブロックATの島田社長は「インド向けで現在年4億〜5億円程度の売上高を今後2〜3年で年20億円規模に伸ばしたい」と目標を語る。